



2025 年 10 月 23 日



各 位

会社名 タカラバイオ株式会社
(コード番号 4974 東証プライム)
本社所在地 滋賀県草津市野路東七丁目 4 番 38 号
代表者 代表取締役社長 宮 村 毅
問合せ先 執行役員広報・IR 部担当 西 脇 紀 孝
TEL (077) 565-6970
URL <https://www.takara-bio.co.jp/>

中間期業績予想の修正および特別損失の計上ならびに繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ

当社は、2025年5月13日に公表した2026年3月期第2四半期（中間期）の業績予想の修正、特別損失の計上、繰延税金資産の一部取り崩しを行う見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 中間期業績予想の修正

(1) 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期） 連結業績予想数値の修正（2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A） （2025 年 5 月 13 日公表）	21,300	△1,450	△1,430	△1,320	△10.96
今回発表予想（B）	18,700	△2,350	△2,500	△6,900	△57.30
増減額（B－A）	△2,600	△900	△1,070	△5,580	－
増減率（％）	△12.2	△62.0	△74.8	△422.7	－
（ご参考） 前期第 2 四半期実績 （2025 年 3 月期第 2 四半期）	19,758	417	549	513	4.26

(2) 差異の理由

世界的にライフサイエンス研究市場が低迷する中、米国の政府方針による研究助成金の大幅削減や中国の経済不況などの影響が加わり、産業界およびアカデミアにおける研究開発のアクティビティが世界的に低下し、売上高は前回発表予想を下回る見込みです。人員体制の見直し、研究開発の選択と集中、管理費の削減などにより販売費及び一般管理費は前回発表予想を下回るものの、減収の影響が大きく、営業利益および経常利益は前回発表予想を下回る見込みです。また、後述のとおり特別損失を計上することおよび繰延税金資産の一部取り崩しを行うことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は前回発表予想を下回る見込みです。

なお、2026 年 3 月期通期業績予想につきましては、現在精査中であり、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 特別損失の計上

当社は、製薬企業などからの受託数の増加や NY-ESO-1・siTCR[®]遺伝子治療（TBI-1301）の進展などに伴う製造需要の拡大を見込み、細胞加工やウイルスベクターなどの受託製造に係る設備の増設をしてまいりました。しかしながら、大塚製薬株式会社との NY-ESO-1・siTCR[®]遺伝子治療に関する共同開発・独占販売契約の終了、クライアントの開発方針の変更、再生・細胞医療・遺伝子治療分野における研究開発の環境変化などの影響を考慮し、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、増設した一部の設備の減損損失約 39 億円を特別損失として計上する見込みとなりました。

3. 繰延税金資産の取り崩し

現在の事業環境および今後の業績動向などを勘案し、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、2026 年 3 月期第 2 四半期において、繰延税金資産を約 4 億円取り崩し、法人税等調整額として同額を計上する見込みとなりました。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。